

核のない平和な世界を願って

今年で70回目の終戦記念日を迎えます。しかし、今なお広島・長崎の原爆の後遺症に苦しむ多くの人たちがいます。

核も戦争もない平和な世界は人類の願いであります。が、テロと報復戦争が繰り返されています。

津別町は、平成10年9月に左記の「非核・平和の町宣言」を行い、核兵器の廃絶を訴えています。また、平成14年には幸町の忠魂碑跡地に「平和の碑」を建立し、恒久平和の実現を願っています。

さらに、平成21年に、連帯して世界恒久平和の実現を願う「平和市長会議」に加盟しました。



平成14年に建立された「平和の碑」

「非核・平和の町宣言」の決議
世界の恒久平和と豊かで安全な地域環境を守ることは、全世界の共通の願いであります。

この切なる人類の願いにかかわらず、今なおこの地球上には大量の核兵器が蓄積され、核実験・核競争が行われ、この脅威から解放されておりません。核兵器の使用は地球を破壊し、すべての人類、すべての文明を破壊させるものであります。

世界唯一の被爆体験国である日本国民は、この過ちを再び繰り返さないために、核兵器の廃絶を世界に訴え続け、核競争に歯止めをかけなければなりません。

愛林の町を宣言している私たち津別町民は、緑豊かな自然と郷土を守り子孫に伝えるためにも、非核三原則の作らず・持たず・持ち込ませずの理念を尊重し、恒久平和の実現を願い、ここに「非核・平和の町宣言」をする。以上、決議する。

平成10年9月25日

北海道網走郡津別町議会



ふなっしー登場に会場は大いに盛り上がりました



船橋市の松戸市長も来場



第11回川のぼり大会



賑わった出店



子どもたちに人気のスマートボール



姉妹都市・南アルプス市の物産を販売



32回目となった千人おどり

7月11日・12日の両日、第45回つべつ夏まつりが、河岸公園を中心に開催されました。リコーダー、吹奏楽の演奏で幕開けした11日の前夜祭は、恒例のつべつ千人おどり、もちまき大会などで盛り上がり、呼び物の花火大会では夜空を彩る大輪の花に、見物客から歓声が上がっていました。12日の本祭では、第11回つべつ川のぼり大会、特産ピーフまつり、食べ物や名産品の出店などに多くの人が集まり、快晴の夏の日を満喫していました。

また、野外ステージには友好都市・船橋市の尽力により、大人気ご当地キャラクター・ふなっしーが登場。子どもたちとの交流などで、会場を埋めた町内外からの観客を沸かせました。

各種医療費助成事業の受給者証は届いていますが

町では、北海道と共同で医療費の助成事業を実施していますが、この受給者証は毎年7月に更新しています。現在助成の対象になっている方には、7月下旬に郵送していますが、もし届いていない方がいましたら役場担当まで問い合わせ願います。

乳幼児等医療費助成事業

【受給者証を提示することで医療機関の窓口負担が0円になります】

平成27年8月から道内の医療機関で受診した際、受給者証を提示することで窓口負担が0円になります。ただし、容器代等の保険適用外は除きます。

また、対象とならなかった医療機関等で受診した場合は、今までどおり領収書を役場に持参の上、医療費を請求してください。

ひとり親家庭等医療費助成事業

【母子家庭、父子家庭の方が助成対象になります】

ひとり親家庭で、18歳未満の児童・生徒及びその児童等を養育している方が対象です。住民税非課税世帯の方は、児童等が20歳未満まで対象となります（申請には学費証明書が必要）。

受給者証は、各医療機関に提示することで、医療費の助成が受けられます。ただし、親の外来は医療機関で発行される領収書を役場に持参の上、医療費の請求をしてください。

重度心身障がい者医療費助成事業

対象者は、身体障害者手帳の1、2級と3級（内臓疾患のみ）、療育手帳「A」判定の方などです。

受給者証は、各医療機関で提示することで、医療費の助成が受けられます。

※住民税課税で65歳以上の一定の障がいがある方（障がい後期医療制度加入者）は、自己負担が1割となりますが、後期高齢者医療保険も同じ1割となりますので、受給者証は交付されません。

問い合わせ先

保健福祉課 健康医療グループ
福祉医療担当⑨番窓口
☎76-2151（内線229）